

# ドクター板東の メディカルリサーチ

徳島エコノミージャーナル Eco ja  
No. 327 (2007. 1) 17(4): 26-27, 2007

Vol. 13

## ～人口減少で将来は大丈夫か？～

<http://hb8.seikyou.ne.jp/home/pianomed/>

年末に衝撃的なニュースがあった。厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所が「日本の将来推計人口」を公表。日本の総人口が2055年には8千万人台まで減少するという。わずか50年間で、日本の人口は3割も減ってしまうというのだ。

### すすむ少子化

5年前の推計では、合計特殊出生率（一人の女性が生涯に産む子供数の推定値）が1.39まで回復すると予想。しかし2005年実績の1.26としたため、大幅に下方修正したのだ。

昨年、筆者は本誌で、徳島県の合計特殊出生率が全国で最も大きく下降したことを紹介。原因を考え、他の都道府県や外国の現状と比較してみた。

人口問題は、その国の政治・経済・社会・医療・教育などあらゆる面と相互の影響が認められる。このたび公表されてから、様々な立場から議論が沸騰している。本稿では今回のデータ

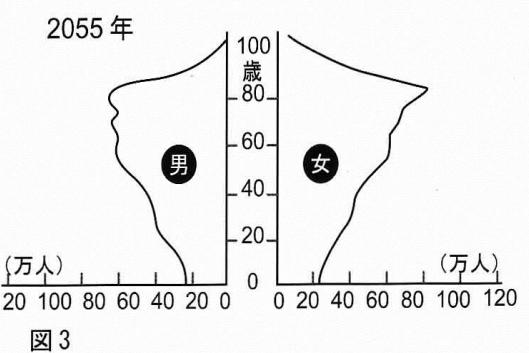
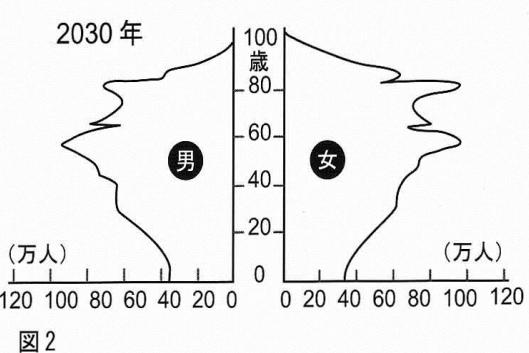
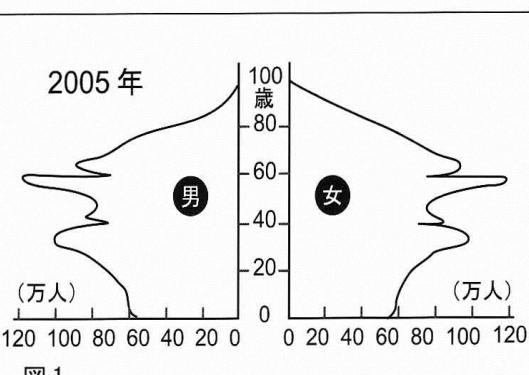
### 年代構成が変わる

について考え、医学との関係に若干触れたい。

現在と50年後とで、年代構成はどう変わってくるのだろうか？ 図1～3をご覧いただきたい。

今は図1のように、55～60歳の団塊の世代、および、その世代の子供として30～35歳の人口が多いのが特徴だ。従つて2007年問題と以前から言われて化がみられてくる。

次に、図2に示す2030年には注目してほしい。団塊の世代は、25年後には



80～85歳となっている。左右を比べてみると、左側の男性は出っ張りが少ないが、右側の女性は突出している。これは平均寿命（男性は約78歳、女性は約85歳）と深い関係がある。また、この世代の子供は55～60歳に該当する。

さらに、図3の2055年で、80～85歳の左右を見比べてほしい。左の男性では出っ張りがないが、右の女性では明らかにビーグル。ここで図2と図3と比較してみると、2030年の55～60歳が、2055年の80～85歳となっている。左の男性の人数はこれだけ減少してしまうが、女性の人数の

減はこの程度だ。これほど性差が存在し、医療施設でも当然、女性の高齢者が多いこととなる。

ここで、図1～3の全体像を遠くから眺めてみてほしい。すると、衝撃的な変化は「形の差」だ。2055年には、逆三角形となっている。0歳の人数を図1と図3で比較すると、新生児の数が約6割も減っています。祖父母の世代と比べ、孫の世代の人数が4割になると、統計学的にも確かめられる。祖父母の世代と比べ、孫の世代の人数が4割にならざるを得ない。いまの割合で減り続けると、小中高校の学生数や教師数、大学の定員数などが大きく変わるだろう。

公的年金への影響

年金はいつたいどうなるのだろうか？ 現在、働く世代3.2人が1人の高齢者を支えているのが現状だ。

年金制度の計算は前回の将来人口推計を前提としたもの。従つて、人口想定が異なると結果は違つてくる。さらに様々な因子が絡みあうことにより、給付水準は下がらざるを得ない。

医療の変化と展開

筆者は内科医である。臨床現場で患者の診療にあたりながら、日本の医療がどのように展開しまた変遷してきたのかを長年注意深く

Dr. ハーー診療所

ヒューマニティ溢れる医原を実践していたのが、吉高秀隆さんが演じていた

報道的、教育的なものが挙げられる。その中で、医療に対する患者の認識が変化し、医師患者関係も変わつてきているようだ。

4.6万円に増えていく。今後、平均寿命が延びるのは間違いない。2055年には男性が83.67歳、女性が90.34歳になると。従つて、高齢者が年金を受け る期間はさらに長くなる。

家の改築を考える  
以前に、ビフォーアフター  
というテレビ番組が

An illustration of a monk with a shaved head and a beard, wearing a grey robe, sitting cross-legged and reading a book. Three simple black stick-figure-like people stand in front of him, looking up at him.

つて、高齢者が年金を受け  
る期間はさらに長くなる。

以前に、ビフオーラフターというテレビ番組があつた。現在の住居でいろんな支障が出てきたので、改築する。この際、住人の希望や様々な状況を考慮に入れ、お洒落に仕上げるとい

しなければいけない事態となつてゐる。また、夜間に  
おける小児救急については、  
全国各地で個別の対応が難  
しい状態に。そこで、小児  
救急センターの設立が増え  
てきて いる。

島民とみんなで支えあつて  
いる。私が従来医療視察し  
てきた東南アジア諸国の医  
療現場と似ている。本来、  
医療とは、このような姿か  
ら発展してきた。日本はあ  
まりに豊かになり過ぎて、

診療所のスタッフは地域の人々と生活を共にし、心の交流がある。年寄りが大切にされ、子供はみんなから声をかけてもらえる。若い夫婦も心に余裕があり、数人の子供を育てようと思

うものである。  
↑

本邦の医療は世界で最高といつてもよい。諸外国と

大切なものを失つてしまつたような気がする。

う。これくらいの社会と人間関係が、ちょうど頃合の

は異なり、国内では全国津々浦々まで医療レベルに差異が認められない。このような国は世界中搜しても、他には見当たらぬ。また、

先日、同ドラマ2006の最終回が放映された。柴崎コウさん演じるナースが病気となり、心を寄せるDr.自身が執刀することに。

理想社会かもしだれない。

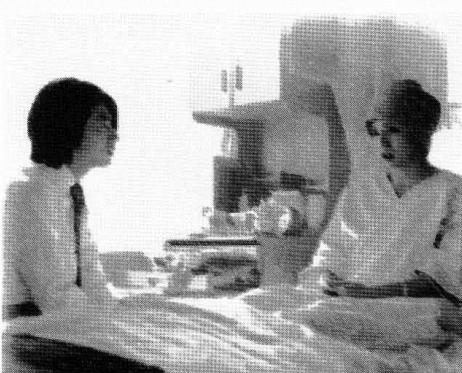
公的年金への影響

---

年金制度の計算は前回の  
将来人口推計を前提とした

ない。改築ではなく、最初から設計の概念を大幅に切り替え、取り組む必要があるのではないか。

医療保険も普通に運営できれば素晴らしい制度だ。しかし、実際には、医療に関するいろいろな問題が



(板東浩、ばんどうひろし、  
医学博士、糖尿病専門医、  
ピアニスト)